

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（21）

NTTドコモ携帯電話無線通信基地局(種子島国上北基地局)建設工事に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 葉山遺跡

2008年3月

鹿児島県西之表市教育委員会

## 序 文

本報告書は、N T T ドコモ携帯電話無線通信基地局 種子島国上北基地局建設工事に伴い、西之表市教育委員会が発掘調査を実施した葉山遺跡の記録です。種子島は古くから自然の恵みを受け豊かなもとにあったことから旧石器時代から歴史時代までの遺跡が多数所在し、貴重な資料が数多く出土しています。

今回発掘調査を行った葉山遺跡は、西之表市北部の国上地区奥に所在します。調査地のそばには島主である種子島家の狩猟の神として崇敬されてきた奥神社があり自然石の石塔群や拝殿横のアコウの木には威厳があり歴史を感じさせる地でもあります。

発掘調査の結果、細石刃核や縄文時代の遺物が出土し、種子島の先史時代を探る貴重な資料のひとつとなりました。

本報告書が学術的文献として活用されるのはもとより、市民の文化財保護に対する意識高揚の一助として十分活用されることを念じています。

最後に、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました鹿児島県教育庁文化財課及び同県立埋蔵文化財センターをはじめ、国上地区的関係者、(株) N T T ドコモ九州、(株) 新生組、ならびに発掘調査に従事された皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

西之表市教育委員会

教育長 有 島 正 之

## 報告書抄録

ふりがな	はやま いせき							
書名	葉山遺跡							
副書名	NTTドコモ携帯電話無線通信基地局(種子島国上北基地局)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	21							
編集者名	沖田純一郎							
編集機関	西之表市教育委員会							
所在地	〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地							
発行年月日	2008年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
葉山遺跡	鹿児島県 西之表市 国上 奥	462136	121	30° 48° 45°	131° 03° 19°	緊急発掘調査 ～ 20070529	250m <sup>2</sup>	携帯電話 無線通信 基地局建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
葉山遺跡	散布地	旧石器時代末期 縄文時代早期 縄文時代中期 縄文時代晚期	配石1基 土坑1基	細石刃核 縄文土器 塞ノ神式 春日式 入佐式  石器 スクレーパー 石斧 磨石・敲石 台石				

## 例　　言

1. 本書はN T T ドコモ携帯電話無線通信基地局（種子島国上北基地局）建設工事に伴う  
葉山遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州の委託を受け、西之表市教育委員  
会が実施した。
3. 本書に用いたレベル数値は、ドコモエンジニアリング九州株式会社が作成した地形図  
に基づく海拔高である。
4. 本書の遺物番号は全て通し番号で、本文及び挿図・図版番号と一致する。
5. 発掘調査における測量・実測は沖田、荒井美佳子が行った。発掘調査における写真撮  
影は沖田が行った。
6. 本書の執筆と編集は沖田が行った。  
遺物の拓本・実測は荒井美佳子、荒牧美和、池田尚子、犬飼涼子、宇辰育子、中園  
愛、沖田が行った。挿図のトレースは荒井美佳子が行なった。なお、石器類のうち細石  
刃核、スクレーパー、石斧の一部の実測・トレースは（株）九州文化財研究所に委託した。
7. 写真図版の遺物撮影は、菊池スタジオ菊池一文氏と沖田が行なった。
8. 発掘調査及び整理作業に関して、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財セ  
ンター・鹿児島県歴史資料センター黎明館 東和幸氏の指導、協力を得た。
9. 出土遺物は西之表市教育委員会で保管し、展示・活用する。

## 目 次

序文  
報告書抄録  
例言

第Ⅰ章 調査の経過.....	2	第5節 遺構.....	15
第1節 調査に至る経緯.....	2	第6節 遺物.....	25
第2節 調査の組織.....	2	①第V層出土遺物.....	25
第3節 調査の経過.....	3	②第IV層出土土器.....	25
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境.....	5	③第II層出土土器.....	31
第1節 遺跡の位置.....	5	④石器.....	31
第2節 遺跡の環境.....	6	第Ⅳ章 調査のまとめ.....	38
第Ⅲ章 発掘調査.....	9		
第1節 試掘調査.....	9		
第2節 層位.....	13		
第3節 緊急発掘調査の概要.....	13		
第4節 層位.....	15		

## 挿図目次

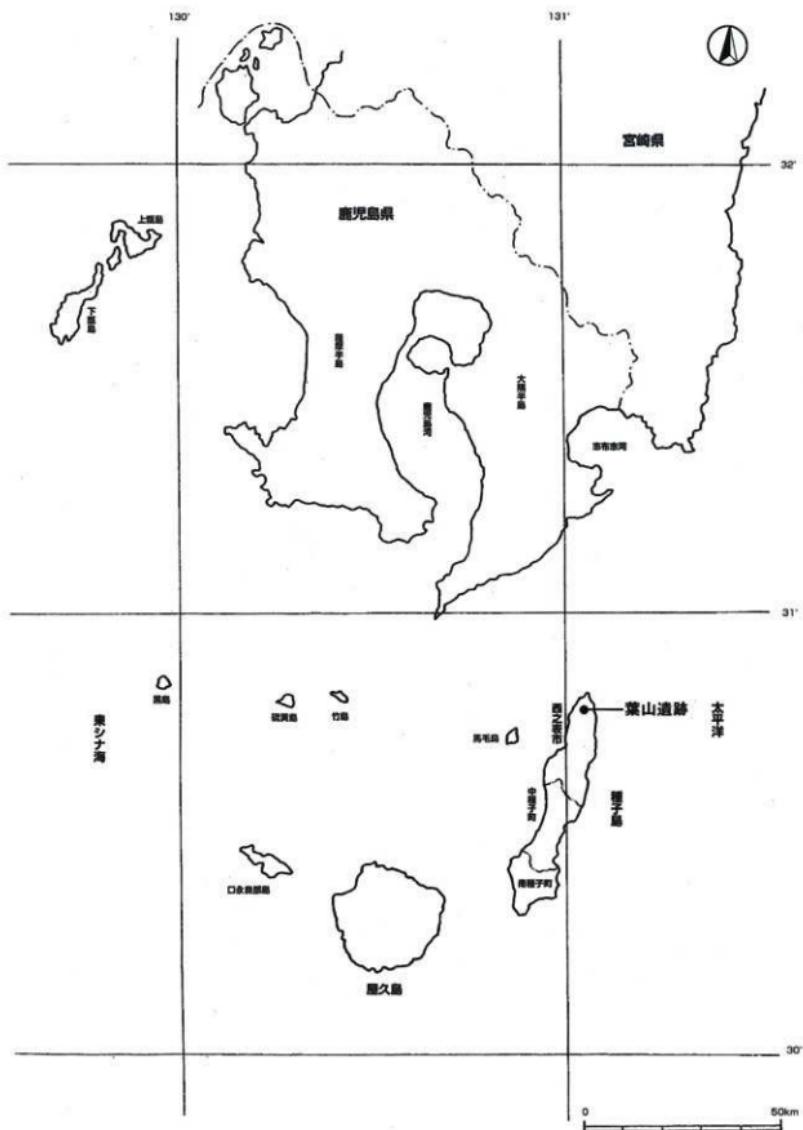
第1図 葉山遺跡の位置 .....	1	第15図 遺構内出土石器(3) .....	24
第2図 遺跡の位置及び周辺遺跡図 .....	7	第16図 緊急発掘調査遺物出土状況 .....	26
第3図 調査対象地 .....	10	第17図 細石刃核・スクレーバー .....	27
第4図 トレンチ配置図 .....	11	第18図 細石刃核・スクレーバー出土状況 .....	28
第5図 試掘調査遺物出土状況 .....	12	第19図 IV層土器出土状況 .....	29
第6図 遺物包含層残存範囲 .....	14	第20図 出土土器(1) .....	30
第7図 土層断面(西側) .....	16	第21図 II層土器出土状況 .....	32
第8図 土層断面(北側) .....	17	第22図 出土土器(2) .....	33
第9図 遺構配置図 .....	18	第23図 緊急発掘調査出土石器 .....	34
第10図 配石 .....	19	第24図 出土石器(1) .....	35
第11図 土坑 .....	20	第25図 出土石器(2) .....	36
第12図 遺構内出土土器 .....	21		
第13図 遺構内出土石器(1) .....	22		
第14図 遺構内出土石器(2) .....	23		

## 表目次

第1表 葉山遺跡周辺遺跡地名表	8	第5表 遺構内出土石器観察表	37
第2表 トレンチ調査状況	9	第6表 出土土器観察表	37
第3表 出土石器観察表(1)	27	第7表 出土石器観察表(2)	37
第4表 遺構内出土土器観察表	37		

## 写真図版

図版1 試掘調査・表土剥ぎ・調査状況	40	図版6 出土石器(1)・遺構内出土土器	45
図版2 調査状況・土層断面	41	図版7 遺構内出土石器	46
図版3 配石・土坑	42	図版8 出土土器	47
図版4 土器出土状況	43	図版9 出土石器(2)	48
図版5 石器出土状況・発掘作業員の皆さん	44		



第1図 葉山遺跡の位置

## 第Ⅰ章 調査の経過

### 第1節 調査に至る経緯

NTTドコモ九州は、西之表市国上奥地区内において携帯電話無線通信基地局種子島国上北局を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について西之表市教育委員会社会教育課（以下市教委）に照会した。

これを受けて、市教委が平成18年5月に埋蔵文化財分布調査を実施した。工事対象地の現況は立木で覆われていたため地表面を確認することはできなかったが、工事対象地の隣接地土手際で土器小片を探集し、遺跡の可能性が極めて高いため、詳細分布調査（試掘）を要するとの回答をした。これを受けNTTドコモ九州は市教委に詳細分布調査（試掘）を依頼し、平成18年9月に調査を行った。調査の結果、工事対象地内から縄文晩期・縄文早期の遺物が出土し、縄文晩期及び縄文早期の遺物包含層が確認された。遺跡名は当該地の字名より葉山遺跡となった。

詳細分布調査（試掘）の結果をもとにNTTドコモ九州・県教育庁文化財課・市教委は遺跡の取り扱いについて協議を行い、工事の設計上遺跡の現状保存は困難であるため工事着工前に、埋蔵文化財緊急発掘調査（全面調査）を実施することになった。

緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり平成19年4月20日から5月29日まで行った。調査を開始するにあたり、奥集落に作業員の手配や排土置場等で協力をいただいた。調査終了後は、種子島開発総合センターにて、整理作業・報告書作成作業を行った。

### 第2節 調査の組織

#### （緊急発掘調査）

発掘調査主体者	西之表市教育委員会		
発掘調査責任者	西之表市教育委員会	教 育 長	有島 正之
発掘調査企画担当	西之表市教育委員会	社会教育課 課 長	内田 節生
	ク	ク	課長補佐 奥村 学
	ク	ク	主 査 柳田さゆり
発掘調査庶務担当	西之表市教育委員会	社会教育課 主 事 鮫島 齊	
発掘調査担当	西之表市教育委員会	社会教育課 主 査 沖田純一郎	
発掘調査作業員	中崎克郎・荒牧文子・宮原ヨシエ・荒河久仁子・佐々木三千代 大河ゆき子・砂坂貴幸・荒井美佳子		
事業主体者	NTTドコモ九州		
整理作業員	荒牧美和・池田尚子・犬飼涼子・宇辰育子・荒井美佳子・中國 愛		

### 第3節 調査の経過

緊急発掘調査は平成19年4月20日から5月29日まで行った。以下調査の経過については日誌抄をもってかえる。

#### 「緊急発掘調査 日誌抄」

4月20日	金	プレハブ設置。電気配線工事。道具搬入。ユンボにてプレハブ設置場所整地。奥神社射場上整地。中崎氏(奥集落公民館長)、松山氏(新生組)来訪。
21日	土	プレハブ内クーラーガス補充、点検作業。
23日	月	発掘作業員雇用承諾書提出。発掘調査内容説明。遺物等説明。 天候不良の為、午前で作業中止。プレハブ内清掃、作業員名簿作成。 内田社会教育課長、奥村課長補佐来訪。
24日	火	掘り下げ開始。鉄塔基礎部分、東側。配石検出。
25日	水	配石箇所周辺掘り下げ。土器片・石器類出土。写真撮影。土器は小片が多い。 鉄塔基礎部分、三分の一掘り下げ。礫等出土。掘り下げ面は、粘土層である。 作業風景写真撮影。
26日	木	西側壁際掘り下げ。Ah層下位より土器片、礫出土。西・南側壁面清掃作業。 配石内清掃作業、写真撮影。基礎部分掘り下げ、黒曜石製石器出土。
27日	金	基礎部分掘り下げ。西側壁際掘り下げ。平板・レベル遺物取り上げ。 写真撮影。九州電気保安協会、新生組松山氏来訪。
5月7日	月	1号配石実測開始。配石内遺物取り上げ。平面図実測終了。西側壁面掘り下げ。 礫、磨石出土。土器片出土。
8日	火	1号配石内半裁掘り下げ。土器、礫出土。配石周囲掘り下げ。南側壁面は礫の出土が目立つ。鉄塔基礎部分は段掘りを行う。出土遺物なし。
10日	木	南側、西側掘り下げ。土器片、石器(石斧など)出土する。平板・レベル遺物取上げ。国上小学校生徒(小4・8人、小6・12人)発掘体験。遺跡説明会、施体験、勾玉作り。奥村課長補佐来訪。
11日	金	平板・レベル遺物取上げ。南側掘り下げ、土器小片が数点出土。土坑検出。 補修孔を有する土器片、他土器小片数点出土。写真撮影。1号土坑平面実測開始。土坑配置ポイント平板測量。南側・北側壁面清掃掘り下げ。ユンボ廃土処理。
14日	月	北側掘り下げ、土器片出土。東側掘り下げ、出土遺物なし。南側、土器片・黒曜石出土。北側土層断面実測開始。平板・レベル遺物取上げ。チャート片、土器片出土。西側土層断面系ライン張り。実測開始。
15日	火	西側土層断面実測。 南側土層断面清掃。東側掘り下げ。黒曜石、チャート製石器出土。
16日	水	東側掘り下げ。チャート製石器出土。ベルトコンベア移動。平板・レベル遺物取上げ。西側土層断面実測終了。1号土坑実測。和田氏(市教委社会教育課)来訪。

17日	木	平板・レベル遺物取上げ。
18日	金	掘り下げ。平板・レベル遺物取上げ。ベルトコンベア1台撤去。掘り下げ。写真撮影。ユンボ廃土処理。
21日	月	1号土坑半裁掘り下げ。土器片・礫出土。写真撮影。平面実測、断面実測。遺物一部取り上げ。
22日	火	1号土坑、掘り下げ。写真撮影。平面実測、断面実測。遺物取上げ。
23日	水	1号土坑、清掃。平面実測、断面実測。遺物取上げ。
28日	月	1号土坑、清掃。平面実測、断面実測。遺物取上げ。写真撮影。
29日	火	1号土坑、完掘。平面実測、断面実測。清掃、写真撮影。調査終了。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置

種子島は本土最南端の佐多岬から大隅海峡を隔てた、東南約40kmの海上にあり、南北52km、東西の最も幅が広い部分で12km、最狭部6kmで、北北東から南南西に細長く伸び、中くびれの形をしている。地形は丘陵性の山地、海岸段丘、河川付近の沖積低地からなり、最高標高は2823mで全体的に低く平坦な島であり、約15km南西側に位置する九州最高峰の宮之浦岳（標高1935.5m）を擁する屋久島とは非常に対照的である。また、地質は古第三紀の熊毛層群が基盤岩となり広く分布し、海岸段丘がこの熊毛層群を侵食して発達している。この海岸段丘は西之表市の東西海岸、中種子町全域、南種子町の西側に見られ、極めて特徴的である。西海岸部には比較的砂丘が発達しているが、東海岸は断崖に富んでいる。行政区は北から西之表市・中種子町・南種子町と1市2町からなる。

種子島の遺跡について述べると、約3万年前の旧石器時代の遺跡である横峯遺跡（南種子町）・立切遺跡（中種子町）や、同時期の国内最古級の落とし穴が多数発見された大津保畠遺跡（中種子町）などがあり、旧石器時代の様相を考えるうえで全国的に注目されている。また、細石刃核・細石刃が確認された遺跡は湊遺跡・大中峯遺跡（西之表市）・立切遺跡（中種子町）・錢龜遺跡（南種子町）などある。湊・大中峯遺跡は表面採集資料ではあるが、特に大中峯遺跡では細石刃核10点、細石刃42点、剥片23点、碎片34点と多数の資料が採集されている。縄文時代では、近年の調査で縄文時代草創期の良好な資料・遺構が相次いで発見されている。奥ノ仁田遺跡（西之表市）の調査で縄文時代草創期の遺跡が本土以南で初めて確認され、その後三角山遺跡（中種子町）・鬼ヶ野遺跡（西之表市）の調査で大量の隆帶文土器片や石器類、多数の遺構が発見され注目を浴びている。その後の縄文時代早期では前平式・吉田式・下剥峯式・塞ノ神式などが出土した遺跡の報告例が多数あり、また最近の調査で、種子島内でこれまであまり報告例がなかった手向山式などの押型文土器の出土報告も増えてきた。前期の遺跡では主に曾畠式土器が出土する遺跡が多く、島内各地で確認されているが、中期の遺物の報告例は少ない。後期の遺跡は指宿式・市来式などが出土する遺跡が島内各地で確認されており、納曾式土器の標識遺跡である納曾遺跡（西之表市）、特異な配石遺構が多数検出された藤平小田遺跡（南種子町）などがある。

弥生時代以降は遺跡及びその出土遺物約1,200点が国の指定を受けた廣田遺跡（南種子町）があり、鳥ノ峯遺跡（中種子町）・田ノ脇遺跡・馬毛島椎ノ木遺跡（西之表市）などの埋葬遺跡や、中期頃の土器片が出土する遺跡が確認されているが、覆石を伴う埋葬址が多いのが特徴的である。

古墳時代に属すると思われる遺跡は上能野貝塚・嶽ノ中野A・B遺跡（西之表市）などがある。種子島において、弥生時代以降の遺跡は縄文時代の遺跡に比べ極端に少ないため、未解明な点が多いのが現状である。

## 第2節 遺跡の環境

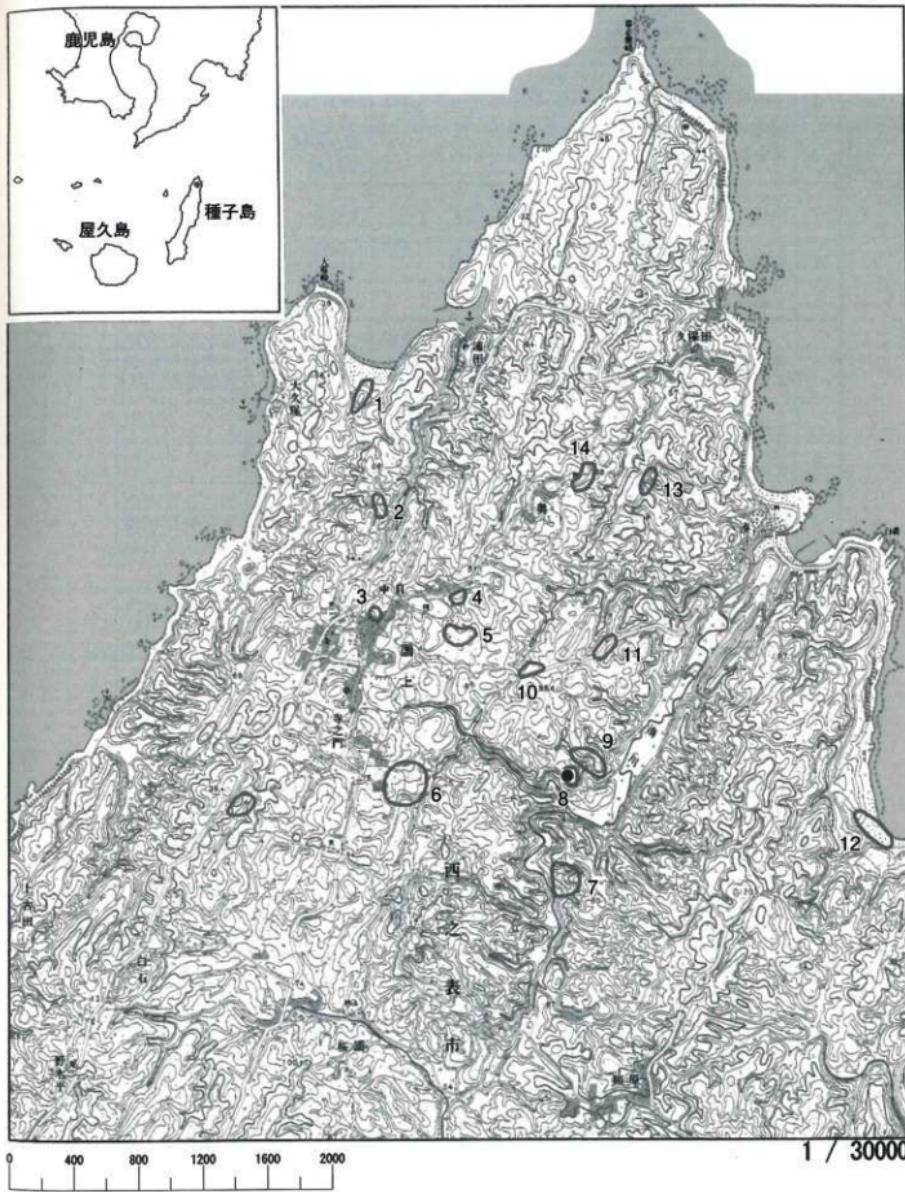
葉山遺跡は西之表市の北部、国上奥地区の標高約85mの台地上に位置している。今回調査を行った場所は、奥神社の隣接地にある所である。奥神社は大山祇大神と木花咲耶姫の二神を祀ってある。この神社には本殿ではなく、拝殿の奥の社の裏に真砂を敷きつめ、珊瑚礁の祠と石祠がある。珊瑚の祠は喜志賀美權現で、以前はタブの大木を宿木にしていたと言われている。この喜志賀美權現は、かつては種子島の最北端の地である国上地区御崎の御山(喜志鹿崎)に祀ってあったといわれ、元来は種子島最南端の南種子町門倉岬の御崎神社と一対をなしており、ともに潮風災害よけの神として祀られていたと言われ中世ごろに奥神社に合祀されたものである。石祠は第19代種子島家島主種子島久基(1664年~1741年)が勧請した觀世音様という神を祀り、鏡2面をご神体としている。

奥神社の周囲には森があり、この森は御山と呼ばれ多くの鹿がいたことから、島主である種子島家の鹿倉(鹿を狩る場所)の一つであった。そのため奥神社は島主狩獵の神として崇敬されていた。

現在、奥神社に面する道路の法面には白色化した貝殻が、幅数センチの層を成しているのが一部に見られるが、道路工事によって主体部は削平され、奥神社の領域のみ一部残存しているのが確認できる。また、この道路工事の際に土器片や石器類も散在していたという話も聞かれ、先史時代の文化層があったことが伺われる。

葉山遺跡が所在する国上地区は種子島の最北端にあたり、旧石器時代から古代・中世にわたって遺跡が所在するところである。中でも古代・中世において非常に興味深い遺跡が多く、伝承等も多く残っている。かつて島の北は「島上」とされていたが、多讃国の頃(大宝年間)に「島上」が国であるということで「国上」となり、これが現在に至っていると言われている。北に位置することを意味する地名では「国上」の他には「国頭」「国北」などがあるが種子島では「国上」のみである。天平13年(741年)聖武天皇の頃、全国的に国分寺がおかれて種子島も多讃国となり、国分寺(島分寺)が置かれたが、その所在地は未だ不明である。しかし国上地区内には寺之門・花堂・大内屋敷など国分寺に由来するものと思われる地名等があり、所在地の有力な候補となっている。

葉山遺跡周辺の遺跡について見てみると、湊遺跡は種子島で初めて細石刃核が発見された(表面採集)遺跡であり、大中峯遺跡では多数の細石刃核・細石刃が発見(表面採集)された。平庭B遺跡では縄文時代前期の森式土器が出土している。寺之門遺跡からは縄文時代早期の塞ノ神式土器、後期の指宿式・市来式土器や軽石製品などが出土した。太田遺跡では古墳時代から中世にかけての遺物が出土している。なかでも8世紀後半の須恵器が出土したことや9世紀から10世紀末のものと思われる高台に挟りのある土師器が数点出土している点が特筆される。この高台に挟りのある土師器は鹿児島県内では出土例がなく、県内で挟りのあるものは青磁・白磁が主であり15世紀に出現するとされている。太田遺跡から出土したこの挟りのある土師器は中国大陸の金属器・青銅器製品の模倣を試みたものとも考えられる。8世紀の須恵器は多讃国分寺に関係する資料であるかは今のところ定かではないが、須恵器を使用した人々がこの国上の地にいたことは確かである。また高台に挟りのある土師器は中国大陸の仏具の影響を受けている可能性もあり、国上の地で9~10世紀には中国大陸との何らかの交易があったことを伺わせる資料である。



第2図 遺跡の位置及び周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物	文献等
1	小浜貝塚	国上 浦田	砂丘	縄文前期 古墳、中世	土器片	H 8年 詳細分布調査
2	大中峯	国上 浦田	台地	旧石器	細石刃核 細石刃	表面探集
3	稻村	国上 中目	低地	縄文	土器片	H 10年 確認調査
4	稻庭	国上 中目	低地	古墳		
5	平庭A	国上 中目	台地	古墳		
6	寺之門	国上 寺之門	低地	縄文早期 後期、中世	土器片 石器類	西之表市埋藏 文化財発掘調 査報告書(9)
7	太田Ⅱ	国上 寺之門	台地	縄文、歴史		
8	太田Ⅲ	国上 寺之門	台地	歴史		
9	太田	国上 寺之門	台地	古墳、奈良 中世、歴史	土器片・須恵 器・土師器・ 青磁類	西之表市埋藏 文化財発掘調 査報告書(13)
10	平庭B	国上 中目	台地	縄文前期	土器片 石器類	西之表市埋藏 文化財発掘調 査報告書(11)
11	高峯	国上 中目	台地	縄文		H 10年 確認調査
12	小浜	伊間 柳原	砂丘	中世	人骨	H 9年 小浜遺跡発掘 調査団調査
13	湊	国上 湊	台地	旧石器、縄文	細石刃核 土器片	表面探集
14	葉山	国上 奥	台地	旧石器、縄文 早期・晚期	細石刃核 土器片 石器類	本報告書

## 第Ⅲ章 発掘調査

### 第1節 試掘調査

平成18年9月に、携帯電話基地局建設工事対象地区内に5本のトレーナーを任意の大きさで設定し、必要に応じて拡張しながら人力で掘下げ調査を行った。各トレーナーの調査については第2表にまとめた。

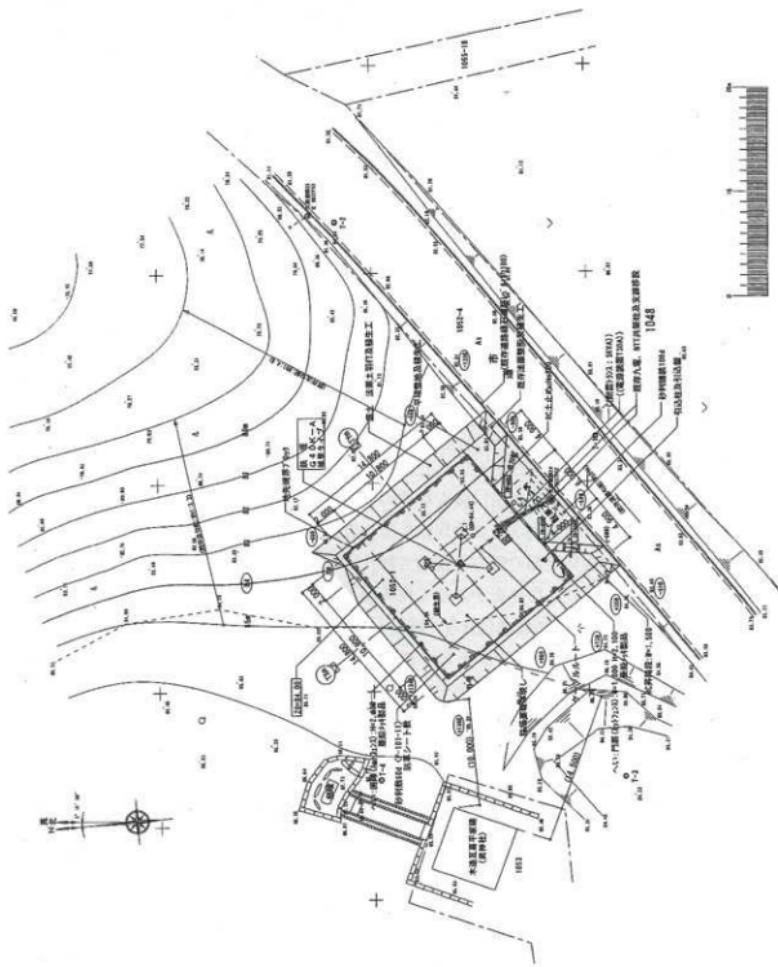
第2表 トレーナー調査状況

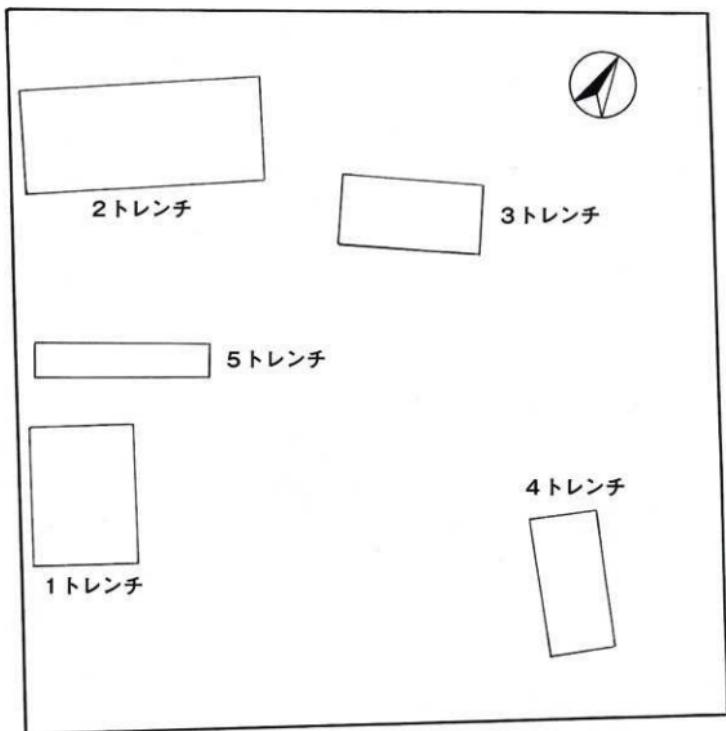
No.	トレーナー名	大きさ (m)	深さ (cm)	最下層	遺 物	遺 構	遺物が出土した 深さ (地表面から)
1	1 トレーナー	3 × 4	130	VII層ベージュ色ローム土	×	×	
2	2 トレーナー	7 × 3	61	IV層ベージュ色ローム土	○	○	20cm
3	3 トレーナー	2 × 4	36	IV層ベージュ色ローム土	○	×	30cm
4	4 トレーナー	2 × 4.5	110	IX層岩盤	×	×	
5	5 トレーナー	1 × 5	65	VII層ベージュ色ローム土	○	×	50cm

遺物が出土したのは2・3・5 トレーナーであった。2 トレーナーからは縄文早期・晚期の遺物が出土した。3 トレーナーからは主に縄文早期の遺物が、5 トレーナーからは縄文早期の土器片及び碎片類(1点)が出土した。この碎片類は出土層より旧石器時代の遺物の可能性が強い。遺構は2 トレーナーから縄文晚期の配石が検出された。試掘調査の段階では全体の大きさを確認した後、写真撮影を行い、白砂をかぶせて埋め戻しを行った。試掘調査の結果、工事対象地内には約250mにわたって遺物包含層が残存していることが確認された。

試掘調査の結果をもとにNTTドコモ九州と市教委は遺跡の取り扱いについて協議を行い、携帯電話基地局建設工事の計画上、遺跡を現状保存することは困難であるため、緊急発掘調査を行い、遺跡の記録保存を行うこととなった。緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、平成19年4月に実施することとなった。

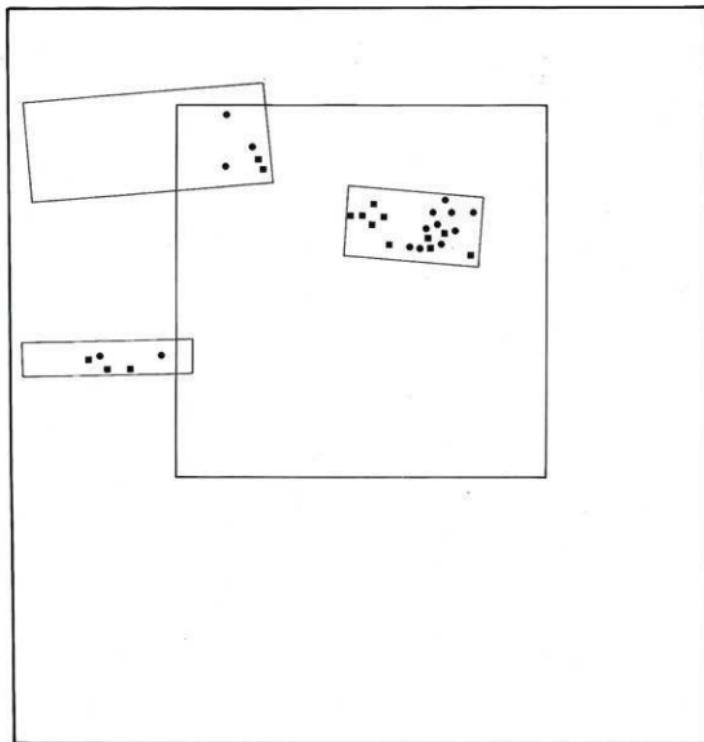
第3図 調査対象地





0 10m

第4図 トレンチ配置図



- 土器
- 石器類



第5図 試掘調査遺物出土状況

## 第2節 層位

土層は場所によって、一部の層が欠落している部分もあるが、基本的には下記のとおりである。

I 層 表土

II 層 黒色土 遺物包含層

III 層 黄橙色火山灰土 アカホヤ火山灰層 約6,400年前の鬼界カルデラ噴出物  
場所により1次堆積物・2次堆積物に分層できる

IV 層 ベージュ色ローム土 遺物包含層（縄文時代早期）やや粘質がある

V 層 暗茶褐色粘質土 硬く締まっており若干粘質がある

VI 層 明茶褐色粘質土 硬く締まっており粘質が強い  
(V・VI層は漸移が見られ、場所により分層が困難な部分  
もある)

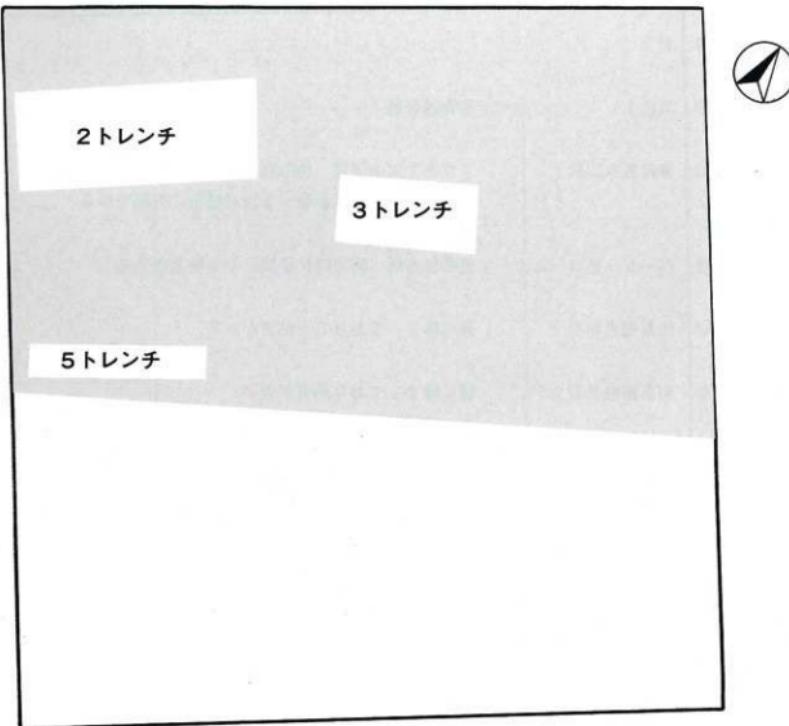
VII 層 黄橙色火山灰土 A T火山灰（約24,000年前の火山噴出物）

VIII 層 ベージュ色ローム土 粘質が非常に強い

IX 層 岩盤

## 第3節 緊急発掘調査の概要

緊急発掘調査は試掘調査の結果をもとに、工事対象地内で遺物包含層が残存している範囲のみ行った。調査は表土を重機で除去し、その後人力で掘り下げを行った。調査面積が狭小であったためグリッド杭などは設置せず、層ごとに、全体に渡って掘り下げを行っていった。調査地の現況は立木で覆われていたため樹根が多数残存し、掘下げの際、樹根を除去する作業にかなりの労力を費やすことが多かった。調査中に番号を付けて取上げた遺物は150点であった。発掘調査面積は約250m<sup>2</sup>である。



包含層残存範囲

0 10m

第6図 工事対象地内における遺物包含層残存範囲

## 第4節 層位

土層は場所によって、一部の層が欠落している部分もあるが、基本的には試掘調査時の土層のとおりである。試掘調査の結果から第Ⅷ層の黄橙色火山灰土（A T火山灰土）以下は無遺物層であることが確認されたため、緊急発掘調査の最下面是第Ⅵ層とした。

## 第5節 遺構

遺構は配石が1基・土坑が1基検出された。

### 配石（第10図）

検出面は第Ⅱ層黒色土である。270cm×160cmと広範囲に、約50点の礫で構成されている。この配石内には土器片・石斧・磨石・敲石類・台石類・珊瑚1点が含まれていた。配石内の土器片（5点）は全て胴部小片であり、図化するまでには至らなかった。3は配石周辺地から出土したもので外面・内面ともに研磨が施された精製土器である。他の土器片も内面あるいは外面に研磨が見られる半粗半精製土器である。いずれも縄文時代晩期のものと思われる。

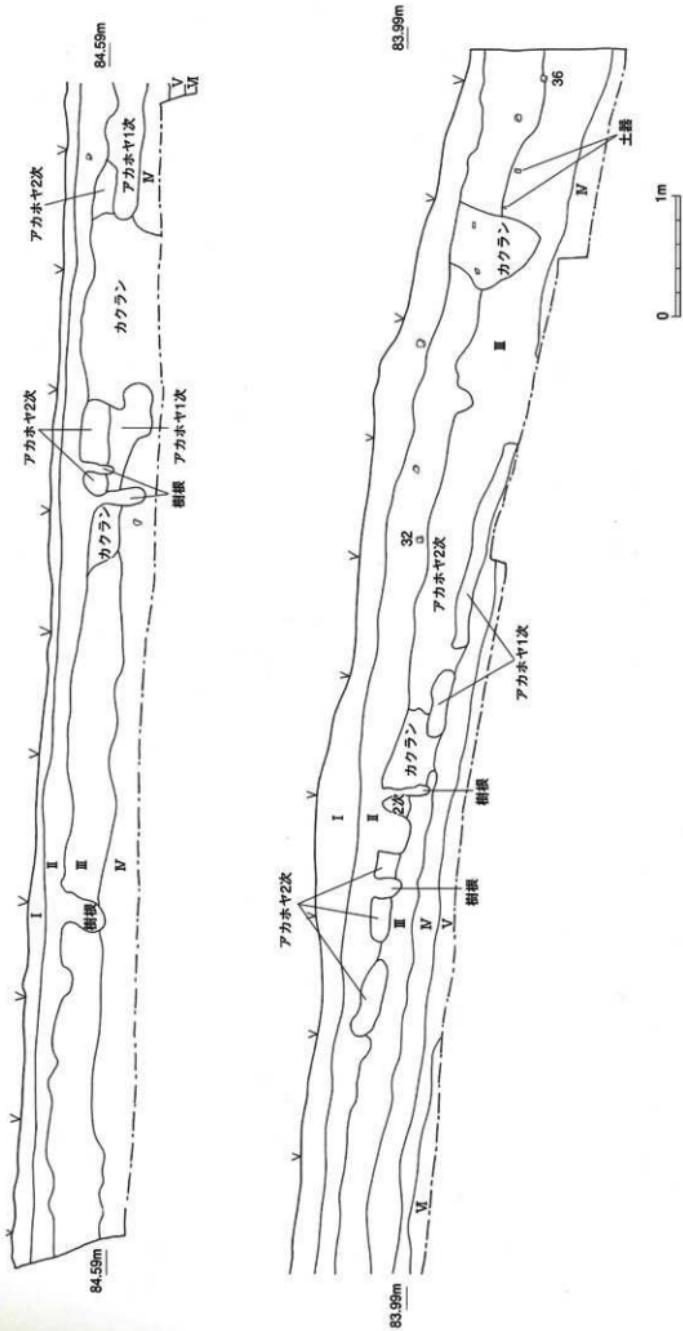
石器は石斧・磨石・敲石類が出土している。11は頁岩製の石斧破損品である。最大長9.2cm、最大幅3.4cm、最大厚3.1cmの非常に小型のものである。11～16は全て砂岩製の磨石・敲石類である。いずれも敲打痕、磨面が観察される。15は表裏面及び側面にも敲打痕がみられる。17は台石であり最大長が20cmを超え、重量が約8kgある大型のものである。配置された礫には炎熱を受けたものや熱破碎をしているものが数点あるものの、他の大半の礫には熱を受けた痕跡は全く見受けられなかった。礫は砂岩であり、大きさは幅40cmを超える大型の礫も数点あり、全体的に大き目の礫を使用しているのが特徴的である。下部には掘り込みは見られなかった。配石内の土器から縄文時代晩期に相当するものと思われる。集石あるいは配石とするか判断に迷ったが、炎熱を受けた礫が少なかつたことや礫の散在状態などから、今回は配石とした。

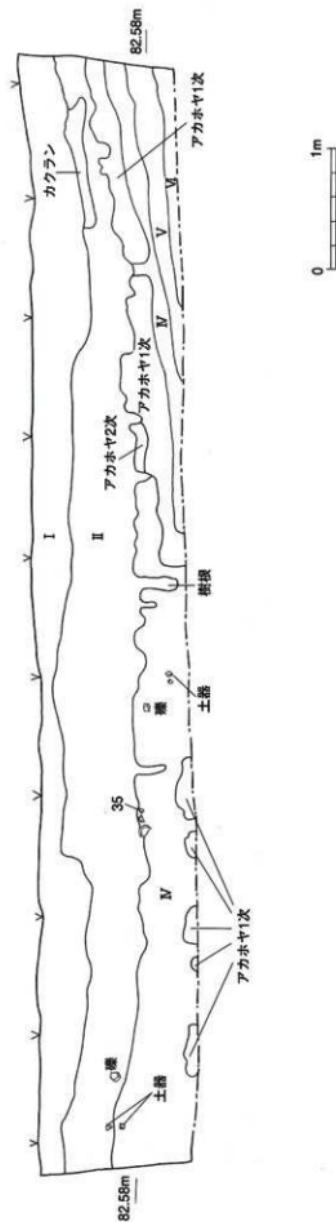
### 土坑（第11図）

検出面は第Ⅲ層アカホヤ面であった。検出面時の土坑の大きさは80cm×62.5cmで梢円形を呈し、中央部下位にもう1段土坑をもつ2段堀りの形で、下位は第Ⅳ層を掘り込む形であった。埋土は1段目が黒茶褐色土であり、2段目は黒色土が強いものである。土坑内からは土器片・石器類が出土している。まず1段目からは縄文時代晩期の土器片が17点出土し、2段目からは同じく縄文時代晩期の土器小片7点が出土している。2段目の土坑内の土器片は非常に脆いものが多かった。出土土器で図化できたのは7点である。4・5は口縁部である。4・5共に器壁が非常に薄く、口唇部は丸みを帯びた粗製の土器である。

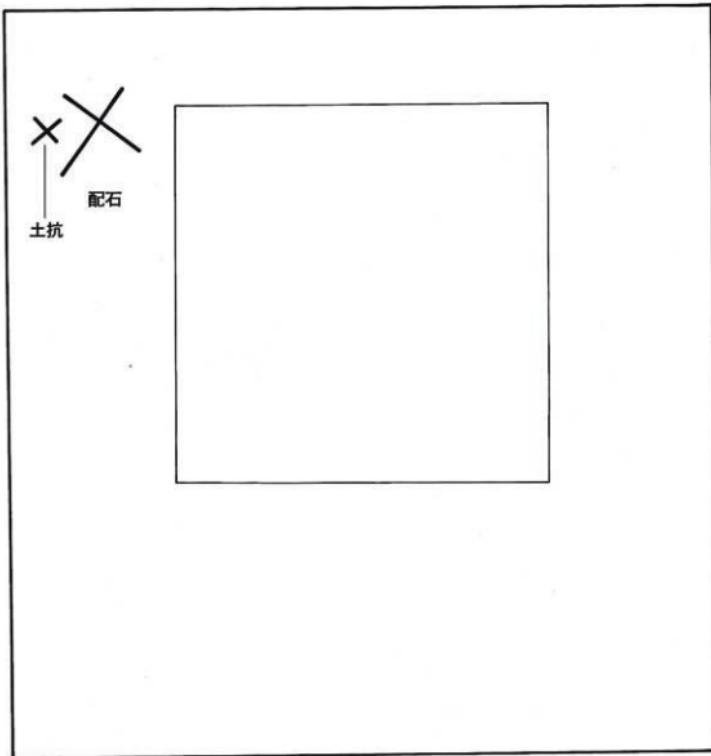
4は口縁部が外反し、口縁帶に低い段が見られ、沈線の名残と思われる浅い細線が口

第7図 土層断面(西側)

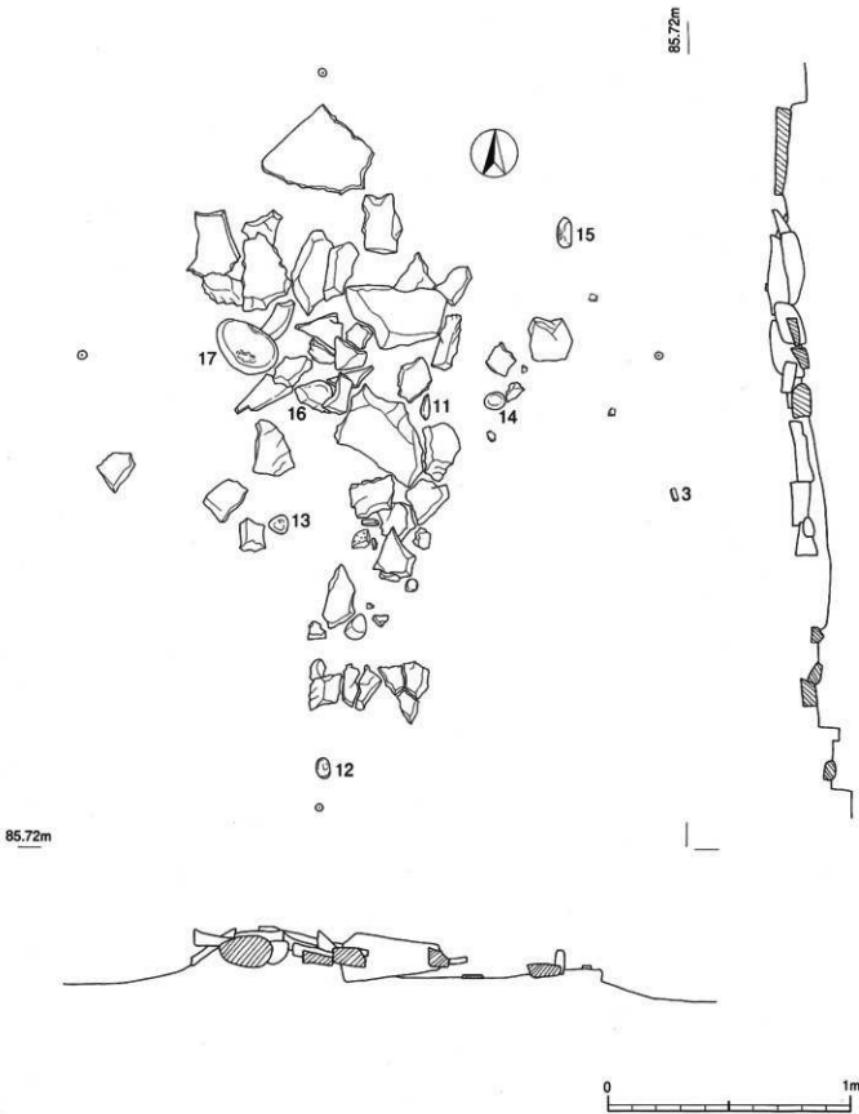




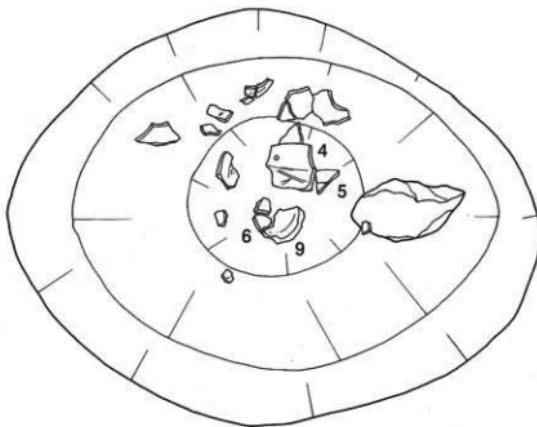
第8図 土層断面 (北側)



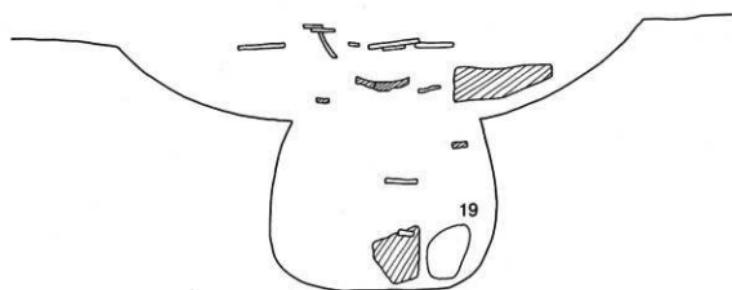
第9図 遺構配置図



第10図 配石

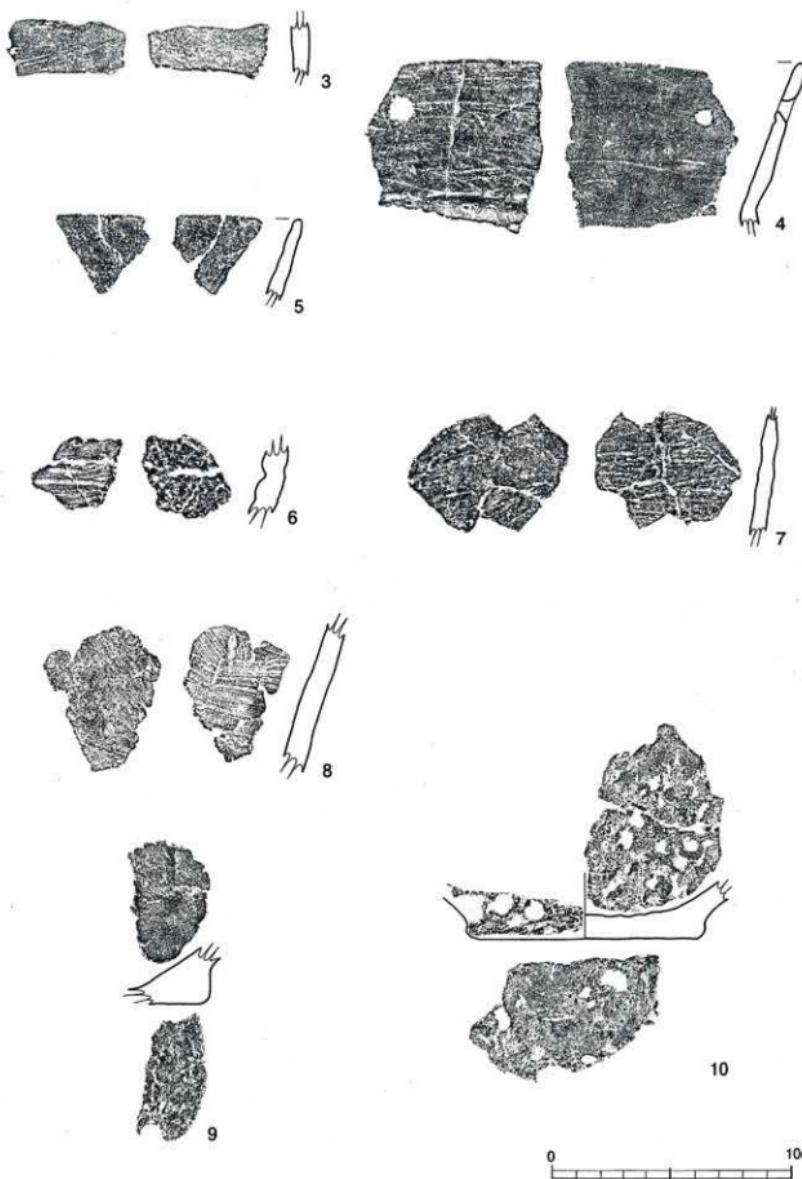


— 84.47m —

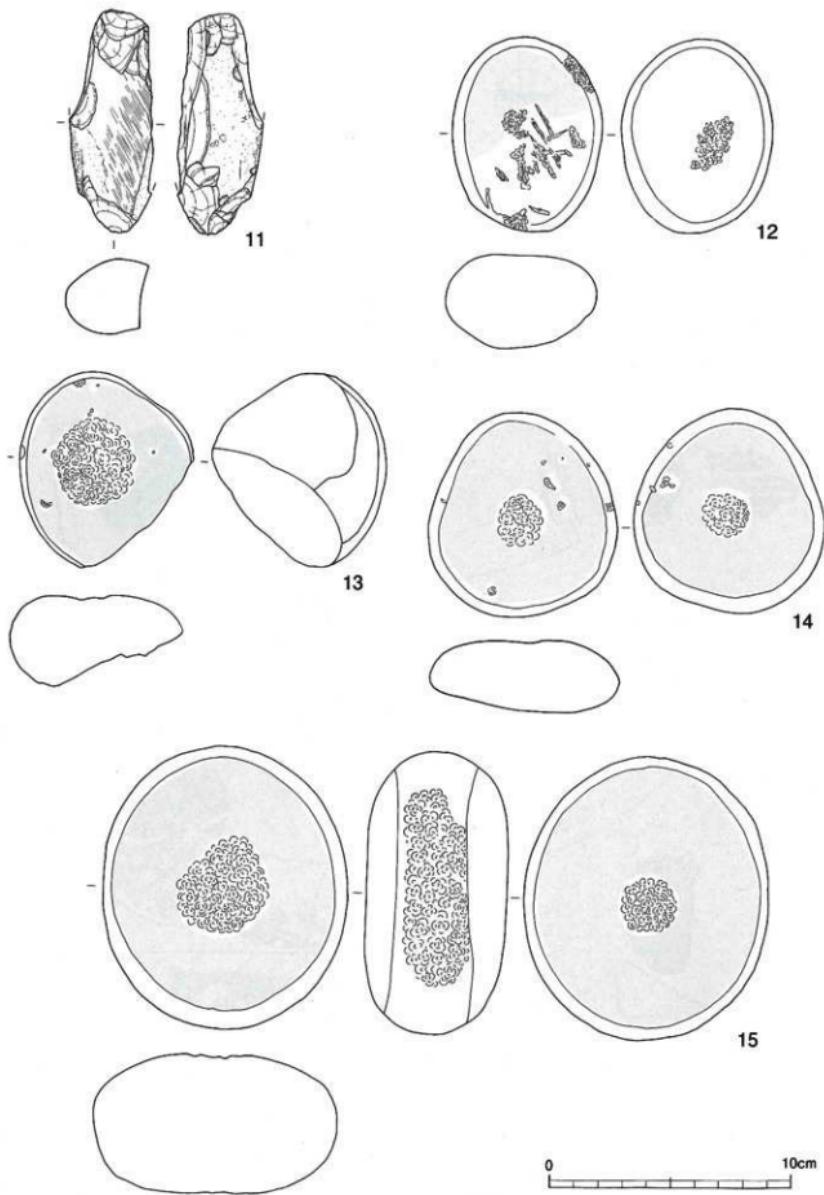


0 50cm

第11図 土抗



第12図 遺構内出土土器

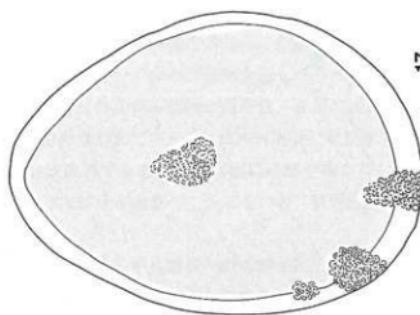


第13図 遺構内出土石器 (1)

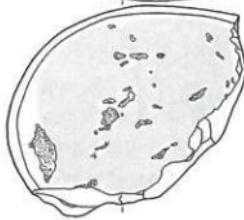
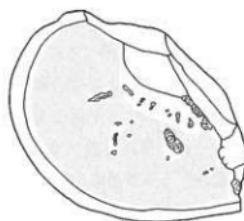
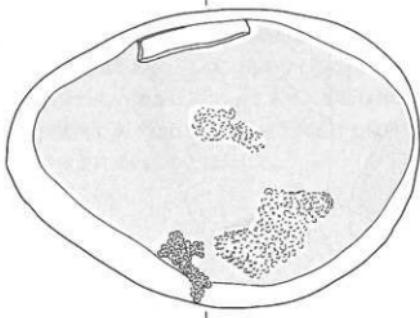
第14図 遺構内出土石器 (2)

0 10cm

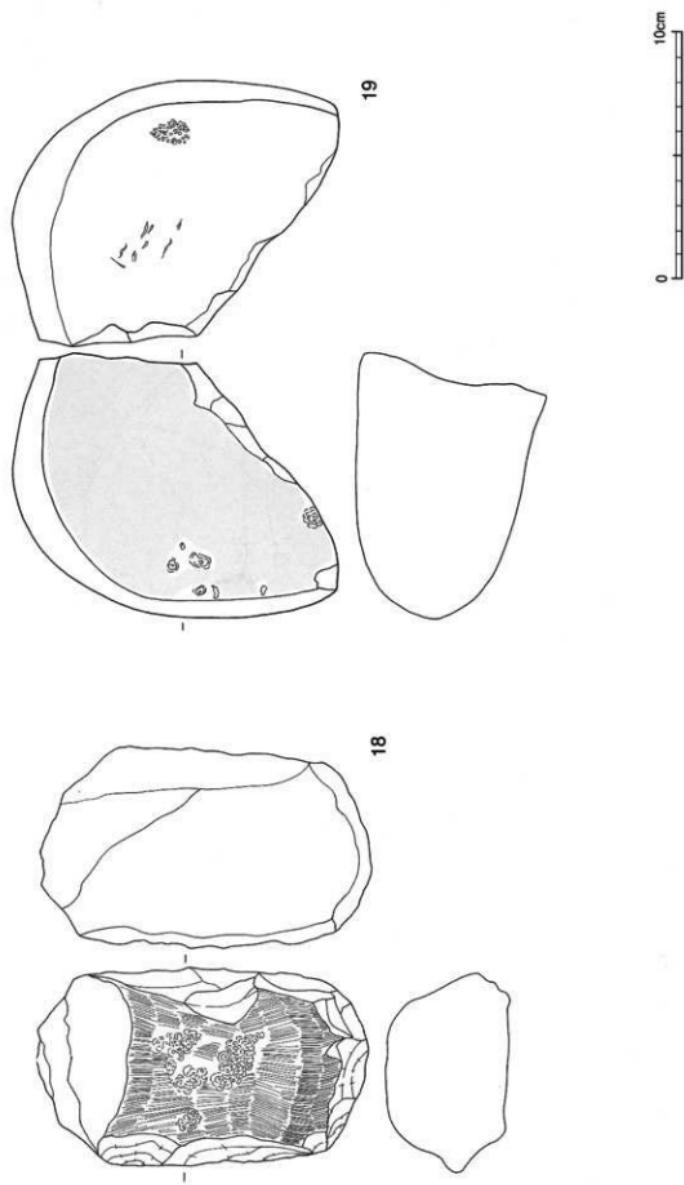
17



16



第15図 遺構内出土石器 (3)



縁部には雑に施されている。屈曲部にはわずかながら稜線が入り、外面から行った補修孔がある粗製の土器で、縄文時代晩期の入佐式土器の新段階に位置付けられるものである。6から8は胴部片である。器面内外面共に条痕やナデなどの調整を施すものと、内面、外面のいずれかに研磨を施したもの、器面内外面共に研磨が施されているものがある。6は外面のみ研磨が見られ、5条の浅い条痕がある。7は内面のみ研磨後、条痕調整が行なわれている。8は内外面共に研磨がみられる。内面には条痕調整が見える。9・10は底部である。9は内面に研磨が施され、厚みがある。10の内面は風化により、表面の大部分が剥落しているものの、研磨痕が施されており、若干張り出しをもつものである。

石器類は石斧、磨石・敲石類が出土している。18は頁岩製の打製石斧で下位2段目の土坑内より出土したものである。周辺を打ち欠き、中央部には数箇所の敲打痕が見受けられる。最大厚が8cmと非常に厚みのある石斧である。19は磨石・敲石類であり主に磨面が顕著である。この土坑は検出面から一段目までの深さは約15cmで、2段目までの深さは約43cmである。この二段目の土坑は幅の最も広いところで約35cmであり1段目の下位部分からの深さは約25cmであり、断面は樽状の形を呈している。検出面がアカホヤ火山灰層であった点から、掘りこみ面は上位の第Ⅱ層黒色土であり、本来の掘り込みの深さは更に深いものと思われる。

## 第6節 遺物

遺物は調査区から土器片・石器類が出土した。第V層出土遺物、第IV層出土土器、第II層出土土器、石器類の順で述べてみる。

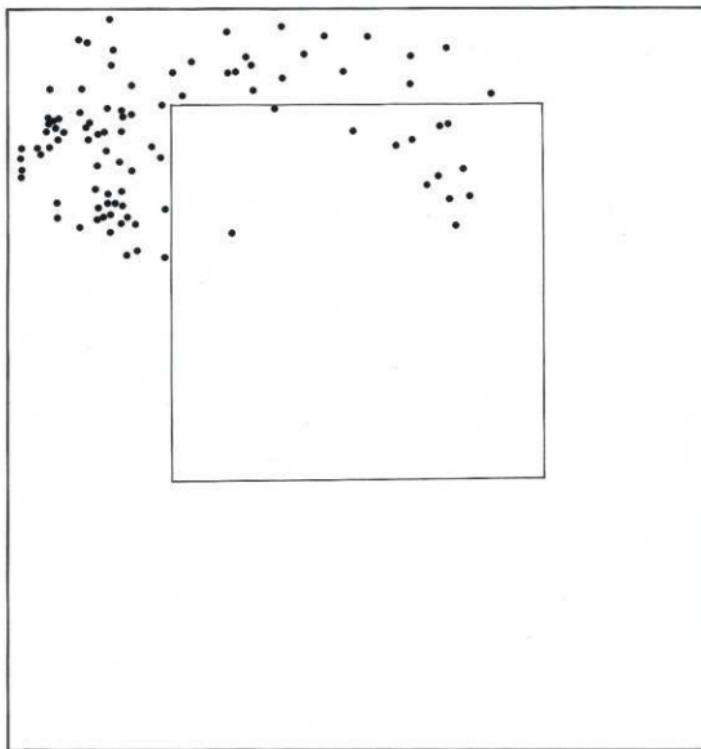
### ①第V層出土遺物（第17図1～2）

第V層より細石刃核（1）、スクレーパー（2）が出土している。他圓化できなかった小片の碎片類が数点出土している。出土地点は1・2ともに調査区の西側である。

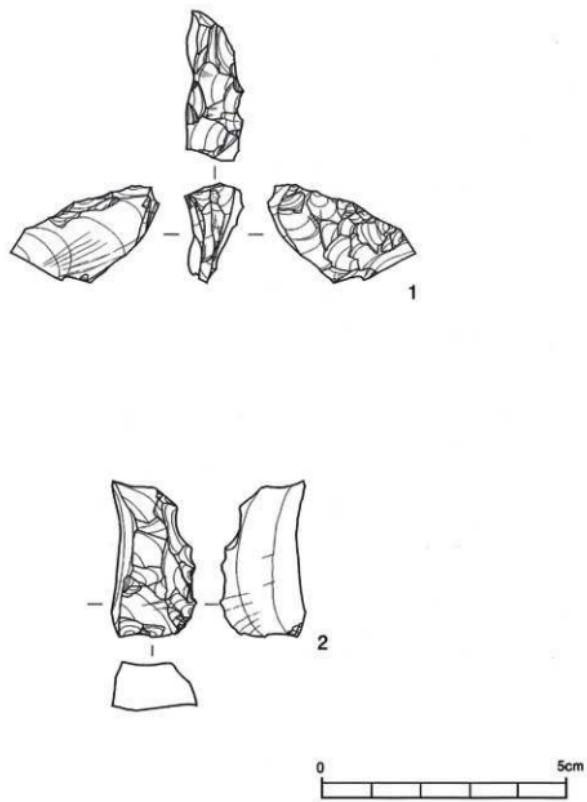
1は腰岳産の黒耀石で製作された細石刃核で、剥片素材を利用した福井技法により製作されたものである。これまで種子島では在地産の頁岩を使用し、船野技法による細石刃核の出土例は確認されていたが、黒耀石製でしかも福井技法によるものはこれまで例がなく、初めてのものと思われる。2は赤色チャートで製作されており、分厚い刃部をもつことからスクレーパー（搔器）と思われるが、細石刃核の調整剥片という可能性も残している。

### ②第IV層出土土器（第20図20～26）

第III層アカホヤ火山灰土の下位であるベージュ色ローム土（第IV層）より土器片が出土している。20は口縁部である。器形はいくらか外反し、外面には浅い沈線が2条見られ、器壁が非常に薄いものである。21～24は胴部片である。21は口縁部に向かって外反するもの



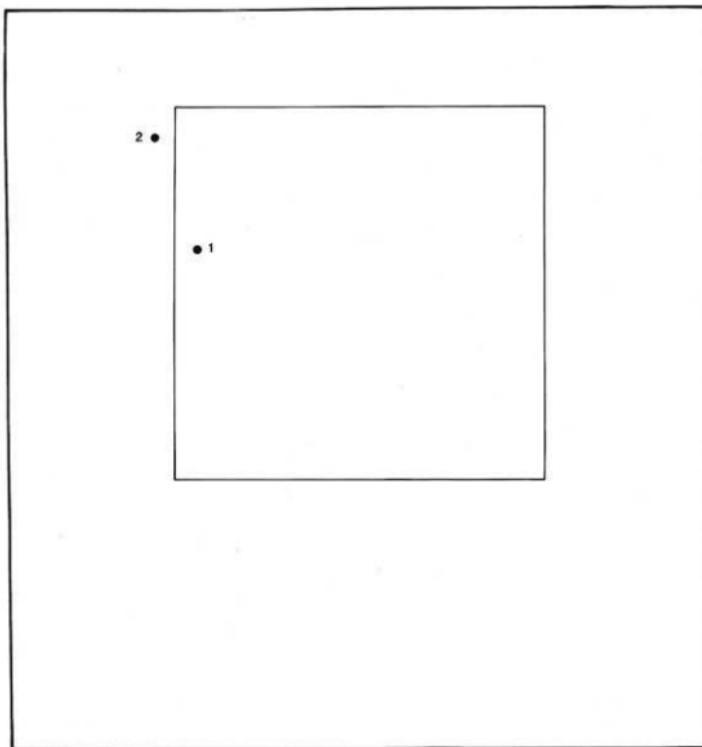
第16図 緊急発掘調査遺物出土状況



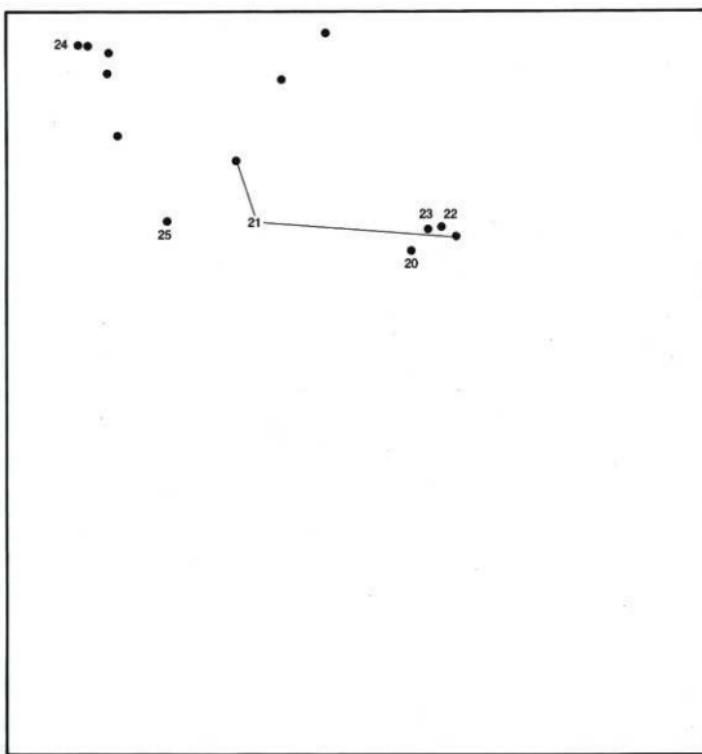
第17図 細石刃核・スクレーパー

第3表 出土石器観察表(1)

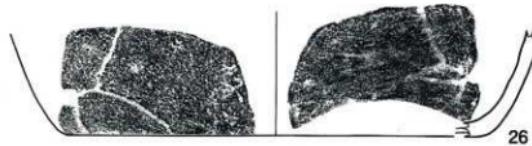
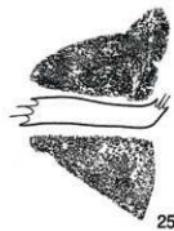
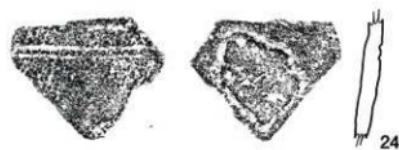
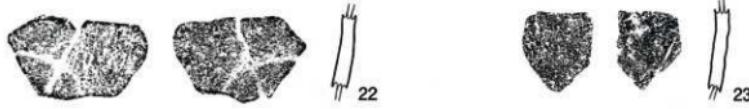
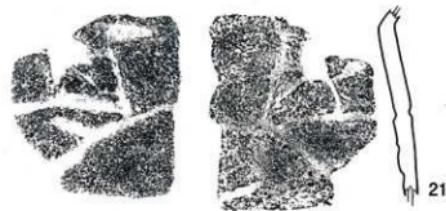
挿図	番号	器種	出土層	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量 (g)	取上番号	備考
					(cm)	(cm)	(cm)			
17	1	細石刃核	V	黒耀石	3.1	1.6	1.2	4.3	116	腰岳産
	2	スクレーパー	V	赤色チャート	3.2	1.7	1.4	7.8	102	



第18図 細石刀核・スクレーパー出土状況



第19図 IV層土器出土状況



0 10cm

第20図 出土土器 (1)

である。22～24は外面に浅い縦位の撲糸文帯を施したものである。25・26は平底の底部片である。

#### ③第Ⅱ層出土土器（第22図27～36）

27～36は第Ⅱ層から出土した土器片である。

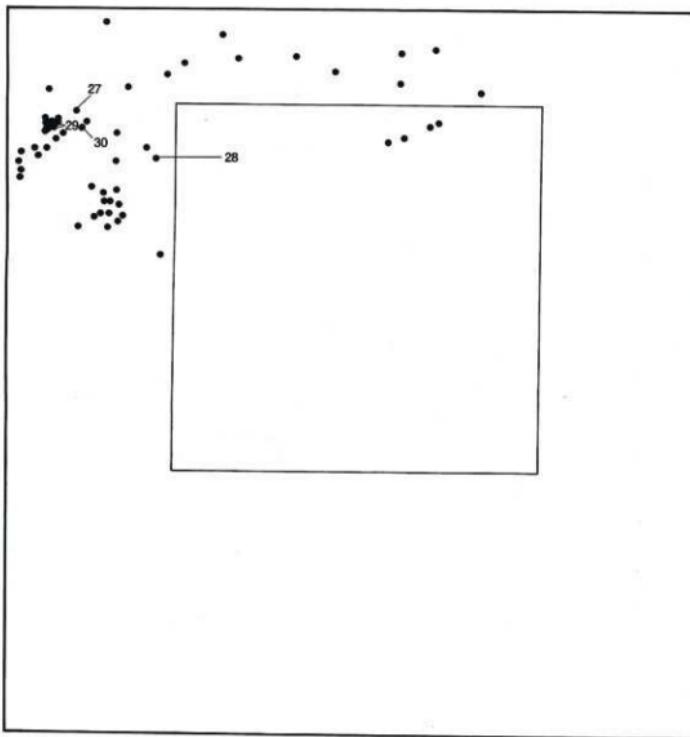
27～29は口縁部である。27は内湾しキャリバー状を呈す。外面には浅い貝殻条痕が施され、口縁部に沿って直線的な鋸歯状の沈線に対応させて、弧状の沈線を描いているものである。胎土に角閃石が含まれるのが特徴的である。29は外面に数条の浅い細線があり、内面屈曲部に稜線が入るもので、頸部以下は直線的に延びていくものと思われる。30～33は胴部片、34は底部片である。30も外面には浅い細線があり、内面の屈曲部には稜線が入る。32は内面が黒褐色を呈し、丁寧な研磨が施されている。33は外面に浅い細線が施され、胎土に小礫が含まれるのが特徴的である。34は平底の底部であり厚みがある。外面は磨耗のためか、剥落している。35・36は外面に沈線が施されている胴部片であり、36は屈曲部に1条の沈線が施されているものである。

#### ④石器類（第24・25図37～43）

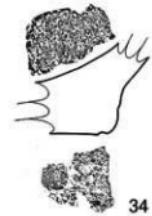
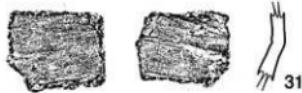
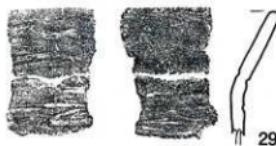
石器類は1・2を除き全て第Ⅱ層より出土したものである。

37～39は石斧類である。37は風化により剥離が明確ではないが、正面下部に観察される擦痕を刃部とした。石材は頁岩である。38は頁岩製で周辺部には敲打痕が観察され、表面中央部は研磨が施されている。刃部は使用のためか欠損している。重量が619gと重みのあるものである。39は頁岩製で、下部に欠損が観察される。この部分には加工痕が見られることから、この部分を刃部として使用していたと思われる。使用中に欠損したものか、あるいは砾器のように使用した際に欠損したと思われる。表面の擦痕は人為的なものではなく自然による磨耗の可能性が高い。

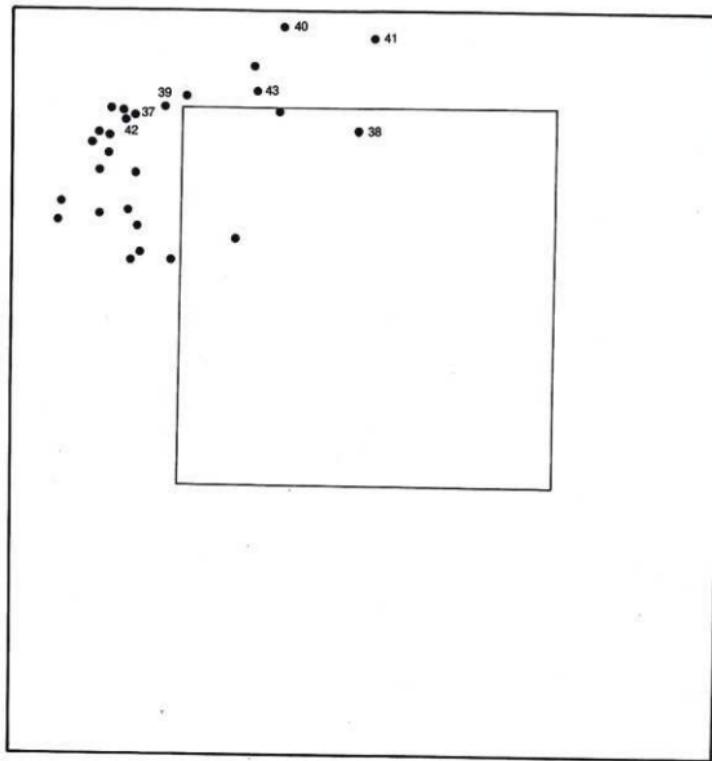
40～43は磨石・敲石類である。全て石材は砂岩であり、磨面、敲打痕が観察されるものである。43は台石であり、中央部に円形の敲打痕が観察される。石材は砂岩である。



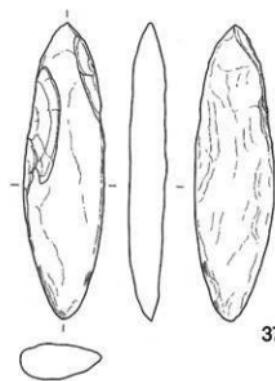
第21図 II層土器出土状況



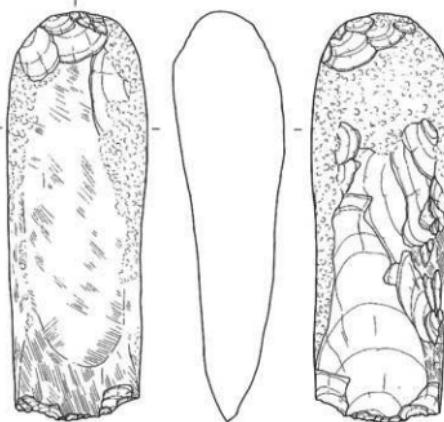
第22図 出土土器 (2)



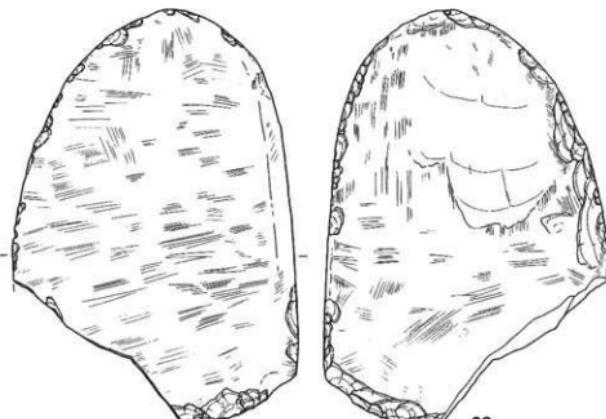
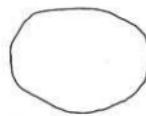
第23図 緊急発掘調査出土石器



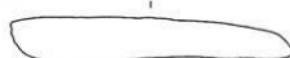
37



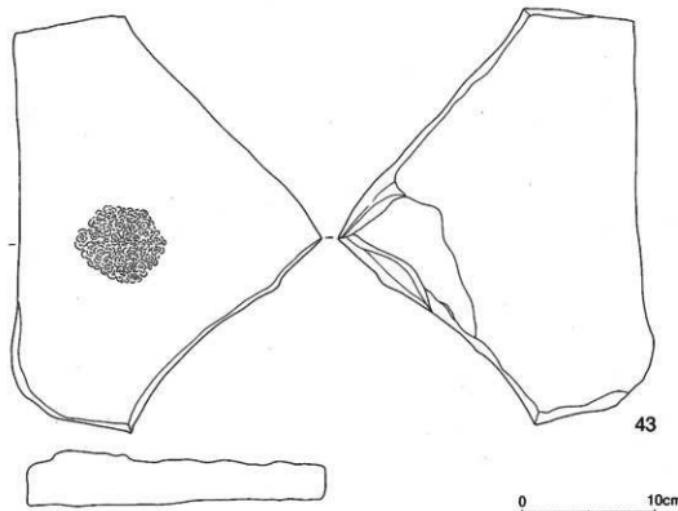
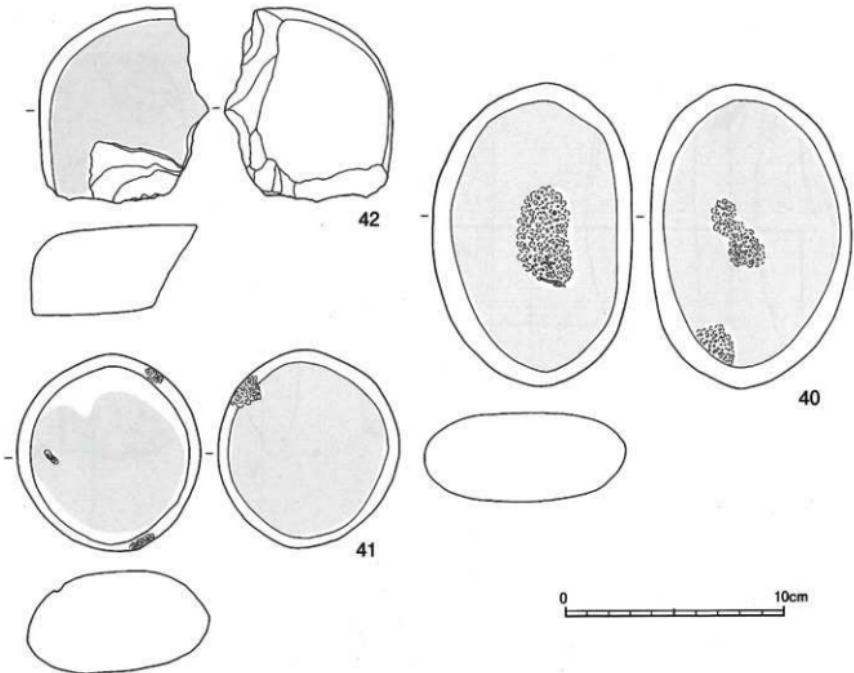
38



39



第24図 出土石器 (1)



第25図 出土石器 (2)

第4表 遺構内出土土器観察表

挿図	番号	取上番号	色調					胎土	備考	
			外 面	内 面	石英	長石	砂粒	雲母	礫	
12	3	配石42	乳茶褐色	乳茶褐色	○	○	○	○	○	外面・内面ミガキ
	4	土坑130	黑茶褐色	黑茶褐色	○	○	○	○	○	口縁部
	5	土坑140	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	口縁部
	6	土坑138	黒褐色	茶褐色	○	○	○	○	○	
	7	土坑一括	乳茶褐色	黒茶褐色	○	○	○	○	○	内面ミガキ
	8	土坑一括	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	
	9	土坑138	赤茶褐色	黒茶褐色	○	○	○	○	○	底部
	10	土坑148	赤茶褐色	黒茶褐色	○	○	○	○	○	底部

第5表 遺構内出土石器観察表

挿図	番号	器種	出土層	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上番号	備考
13	11	石斧	配石内	頁岩	9.2	3.4	3.1	133	配石内37	破損品
	12	磨石・敲石	配石内	砂岩	8.0	6.2	3.8	255	配石34	
	13	磨石・敲石	配石内	砂岩	8.0	7.2	3.7	220	配石36	
	14	磨石・敲石	配石内	砂岩	8.3	7.8	2.9	275	配石39	
	15	磨石・敲石	配石内	砂岩	11.5	10.0	5.8	1100	配石46	
14	16	磨石・敲石	配石内	砂岩	15.0	13.4	8.8	2780	配石35	
	17	台石	配石内	砂岩	28.3	20.1	10.8	8150	配石47	
	18	石斧	土坑内	頁岩	13.2	8.0	4.9	790	土坑一括	破損品
	19	磨石・敲石	土坑内	砂岩	11.9	10.3	7.6	1220	土坑150	

第6表 出土土器観察表

挿図	番号	取上番号	層	色調					胎土	備考
				外 面	内 面	石英	長石	砂粒	雲母	備考
20	20	3T14	IV	黄茶褐色	黄茶褐色	○	○	○	○	口縁部
	21	2T2, 3T16	IV	黄茶褐色	灰黄茶褐色	○	○	○	○	
	22	3T22	IV	灰黄茶褐色	黑茶褐色	○	○	○	○	
	23	3T19	IV	黄茶褐色	黑茶褐色	○	○	○	○	
	24	63	IV	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	○	○	○	○	
	25	33	IV	赤茶褐色	赤茶褐色	○	○	○	○	底部
	26	65	IV	黄褐色	灰黑褐色	○	○	○	○	底部
	27	80	II	灰黑褐色	灰黑褐色	○	○	○	○	口縁部 角閃石を含む
22	28	100	II	茶褐色	黑茶褐色	○	○	○	○	口縁部
	29	9, 14	II	黒褐色	黑茶褐色	○	○	○	○	口縁部 外面・内面ミガキ
	30	9	II	黑茶褐色	黑茶褐色	○	○	○	○	外側・内面ミガキ
	31	13	II	黑茶褐色	黒褐色	○	○	○	○	外側・内面ミガキ
	32	105	II	茶褐色	黒褐色	○	○	○	○	内面ミガキ
	33	12	II	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	内面ミガキ
	34	107	視直	赤茶褐色	灰黄茶褐色	○	○	○	○	底部
	35	97	II	赤茶褐色	黑茶褐色	○	○	○	○	外側・内面ミガキ
	36	112	II	黑茶褐色	黒褐色	○	○	○	○	外側ミガキ

第7表 出土石器観察表(2)

挿図	番号	器種	出土層	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上番号	備考
24	37	石斧	II	頁岩	12.0	3.3	1.5	66	78	
	38	石斧	II	頁岩	16.5	5.7	4.4	619	86	破損品
	39	石斧	II	頁岩	11.5	16.7	1.8	470	77	破損品
25	40	磨石・敲石	II	砂岩	13.6	9.0	4.0	760	54	
	41	磨石・敲石	II	砂岩	8.8	8.2	4.5	440	51	
	42	磨石・敲石	II	砂岩	8.6	7.5	3.9	350	115	
	43	台石	II	砂岩	31.5	22.6	4.1	3180	85	

## 第Ⅳ章 調査のまとめ

調査の結果、遺構は配石が1基・集石が1基検出された。遺構内の出土土器及び検出面などから、時期区分では縄文時代晚期のものと思われる。特に土坑は2段掘りを行っているものであった。配石については祭祀に利用したとも考えられるが、これら2基の遺構について明確な用途は判断出来なかった。しかし、狭い調査範囲から縄文時代晚期の遺構が検出されたことは極めて意義深いものであり、奥神社側に住居址など生活遺構の存在が考えられる。

土器は第Ⅳ層、第Ⅱ層より出土した。

第Ⅳ層出土の土器は外面に縦位の撚糸文を施していることから、時期区分では縄文時代早期の塞ノ神式土器A aの範疇に入るものと思われる。

第Ⅱ層から出土した土器片のうち、27はキャリバー状の口縁部で、外面の貝殻条痕、口縁部に沿って、直線的な鋸歯状の沈線に対応させ弧状の沈線を描いている点などから縄文時代中期の春日式土器・前谷段階の範疇に入るものと思われる。28~34は時期区分では縄文時代晚期に相当し、入佐式土器・新段階に位置付けられるものと思われる。35・36は外面に沈線が施されているもので、今回の調査で出土したのはこの2点のみである。縄文時代晚期のものと思われるが、今後、類例を踏まえ検討していくかなくてはならないものである。

石器は第V層・第Ⅱ層より出土した。

特に第V層より出土した黒耀石製の細石刃核は貴重な発見となった。これまで、種子島では在地産の石材を利用した細石刃核・細石刃・碎片の出土報告例はあったが、黒耀石製のものは初見である。この黒耀石は腰岳産であり、黒耀石の流通・交易を考えるうえでも重要な資料となった。

第Ⅱ層からは石斧・磨石、敲石類・台石類が出土している。石斧は小型のもの、大型のものと出土しており、加工用や伐採用など用途別に使用していたことを伺わせるものである。

出土遺物の主体は、縄文時代晚期の入佐式土器（新段階）の一群であった。9・29などは廣田遺跡（種子島南種子町）や大坪遺跡（鹿児島県出水市）から出土した遺物に胎土、霧岡気が非常に類似していると指摘を受けているものである。いずれにしても、縄文時代晚期の遺物がまとまって出土したことは本市において初めてであり、これまで空白であった資料を補うこととなった。

今回の調査で、旧石器時代終末期の黒耀石製の細石刃核、縄文時代中期の春日式土器、縄文時代晚期の入佐式土器など、これまで種子島内で発掘調査において出土報告例がなかったか、又は少なかったものが発見された点では、意義深いものとなった。特に種子島において縄文時代中期の春日式土器は表面採集での報告はあったが、縄文時代中期の発掘調査報告例が少なく、出土層など今後の縄文時代中期を考察する上で大きな成果となった。

調査面積は狭小であったが、旧石器時代終末期・縄文時代早期・縄文時代晚期と本遺跡は断続的に形成された遺跡であり、遺跡の主体部は調査地西側、奥神社の方に存在するものと思われる。

## 参考文献

- 榎木原遺跡 鹿児島県教育委員会  
鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（44）1987年
- 沖田戸遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（26）2000年
- 大坪遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（79）2005年
- 南田代遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（88）2005年
- 上水流遺跡 1 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（113）2007年
- 上焼田A遺跡・上焼田B遺跡 金峰町教育委員会  
金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書（15）2003年
- 廣田遺跡 南種子町教育委員会  
南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書（15）2007年
- 南九州縄文通信 №8  
南九州縄文研究会 1994年
- 縄文時代 第10号  
縄文時代文化研究会 1999年
- 大河 第8号  
大河同人 2006年

**写真図版**



試掘調査



表土剥ぎ状況



発掘調査状況

図版2



発掘調査状況



土層断面



配 石



土 抗



土器出土状況



石器出土状況

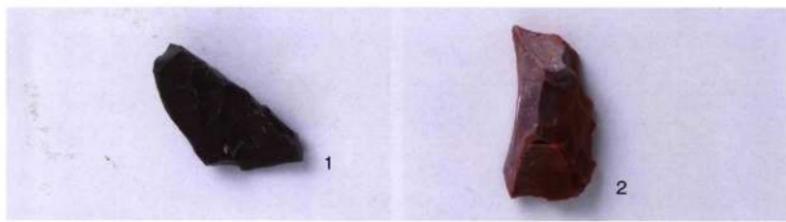


調査地完掘状況

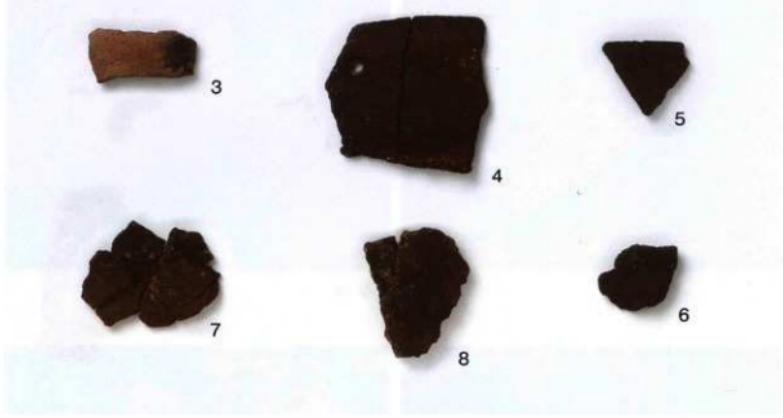


発掘調査作業員のみなさん

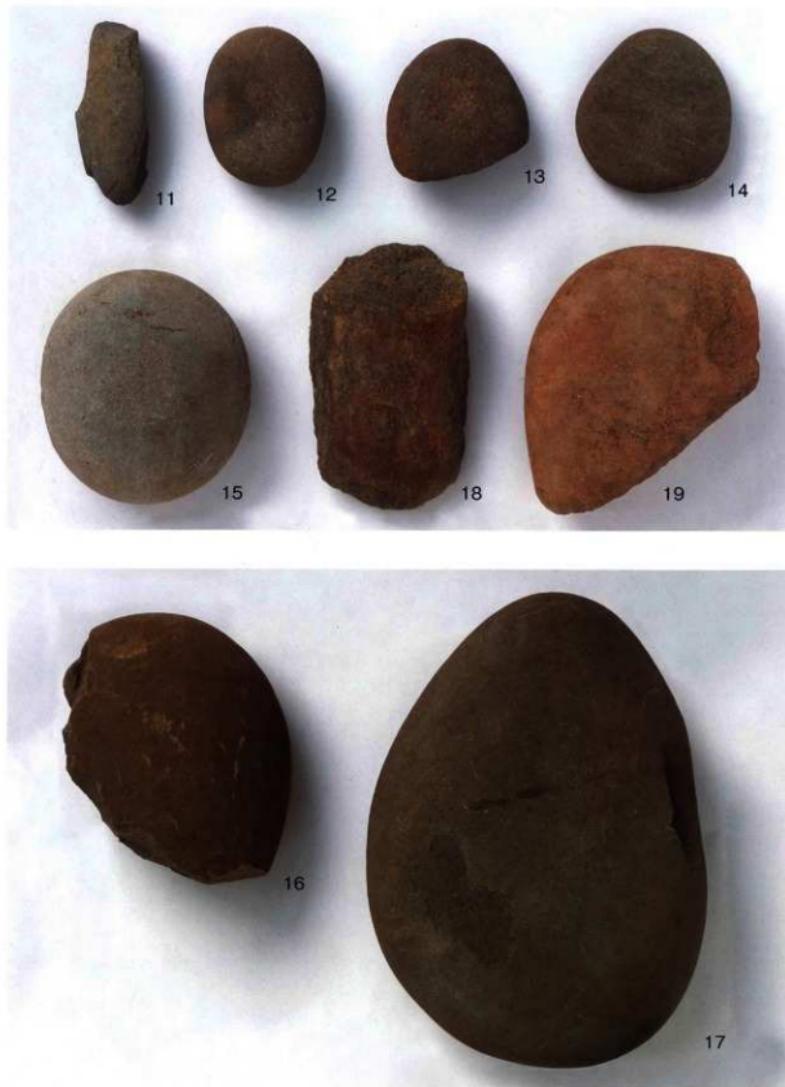
圖版 6



出土石器 (1)

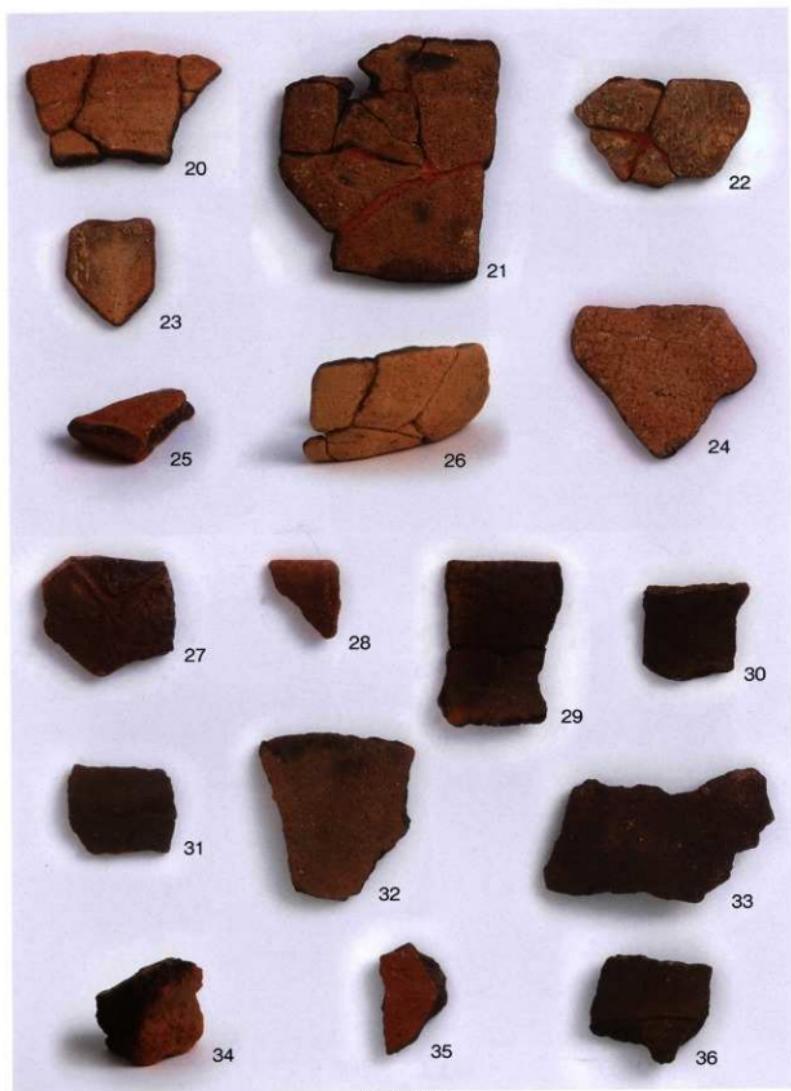


遺物內出土土器



遺物内出土石器

圖版8



出土土器



出土石器 (2)

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（21）

**葉山遺跡**

発行日 平成20年3月  
発行 鹿児島県西之表市教育委員会  
〒891-3193 西之表市西之表7612番地  
TEL 0997-22-1111  
印刷 (有)種子島新生社印刷  
〒891-3101 西之表市西之表16736-1  
TEL 0997-22-0476